

自然と遊ぶ先輩「すげー」

いま No.408
子どもたちは
森の学校 6

に近い「うのこの滝」へ自転車を走らせていた。

片道約5^{キロ}。起伏が多く、1年生2人は上り坂で何度も力尽き、宮島君を待たせた。鈴木君は「死ぬかと思った。先輩の体力はすごい」と笑った。

数週間前、宮島君は寮の1年生6人と休日の過ごし方を話していた。6人は「基本、寝てます」「お菓子食べてます」。例えば、前期生(中学生)のころの自分もそうだった。でも

今は、五ヶ瀬の楽しみ方がわかる。それを後輩にも伝えたい。

「今度、俺が自転車で遊びに連れてっっちゃう」。ついてきたのが鈴木君と長岡君だった。

滝に到着すると、宮島君は2人を近くの水辺に誘い、水面に石を投げて水の上を弾ませる。「水切り」遊びを始めた。

「平らな石を選んで、水平に投げる感じで……」

2人に説明しながら、サイドスローで石を投げると、石はト

ン、ドン、トンと、軽やかに10回跳びはねた。



「すげー」

2人も挑戦してみた。30分ほど頑張ったが、鈴木君は最高4回、長岡君は2回だった。

寮に戻ってから、宮島君は自分が自転車好きになったきっかけを2人に話した。

4年(高1)の夏、仲間数人と自転車で学校近くの川へ行き、ヤマメを釣った。

川辺で子どもと魚を焼いているおじさんがいた。

「僕たちの魚も焼いてもらえんでしょか」

「持つといで」

おじさんは快く焼いてくれ、肉や野菜のバーベキューもごちそうしてくれた。

おじさんとは、家に泊まりがけで遊びに行くほど仲良くなった。以後、宮島君は毎週のように同級生と自転車で数十^{キロ}の道のりを走り、釣りや眺望を楽しみ、地元の人との出会いを大切にしているという。

鈴木君と長岡君は、そんな先輩の話を目を輝かせて聞いていた。
(齊藤純江)

寮から自転車で出かける(左から)鈴木拓馬君、長岡竜生君、宮島淳君
|| 宮崎県五ヶ瀬町